

## 平成 25 年度第 4 回さいたま市市民活動サポートセンター運営協議会会議録

日時：平成 26 年 3 月 13 日（木）19：00～20：45

会場：さいたま市市民活動サポートセンター北ラウンジ

出席：【委員】薄井俊二、尾内浩子、大沢教男、栗原保、杉尚明、鈴木英善、平修久、高田則夫、滝澤玲子、田島理美子、土橋康夫、轟 和宏、中野一恵、野代幸一、野中進、堀越栄子

【事務局】市民活動支援室：田島正信

指定管理者：大工原潤、徳永緑、道具まゆみ、数井美由紀

欠席：【委員】押切勇、萩原敦司

座長：平修久 記録：数井美由紀

次第：

1. 委員の交代について  
＜報告＞資料 1（指定管理者）
  
2. 利用者意見の対応について  
＜報告＞資料 2（指定管理者）  
＜質疑＞
  
3. 利用者懇談会（第 3 回、第 4 回開催）の意見交換の結果について  
＜報告＞資料 3、資料 4（利用者懇談会部会）  
＜質疑＞
  
4. 2013（平成 25）年度の評価について  
＜報告＞資料 5（評価部会）
  
5. 市民活動サポートセンター実施事業および事業の進捗について  
＜報告＞資料「月例業務報告書（平成 25 年 2 月）」、「第 2 回コムナーレフェスティバル報告」（指定管理者）  
＜質疑＞
  
6. 今後のスケジュールについて

## 1. 委員の交代について

### <報告>資料1 (指定管理者)

- ・委員の交代について、資料に基づき、指定管理者から報告があった。
- ・企業関係者として後藤洋委員にご参加いただいていたが、ご所属の「埼玉トヨペット」CSR環境部社会貢献課「ハートネットワッフル」担当に異動があり、轟和宏さんに委員をお願いすることになった。(指定管理者・徳永)
- ・轟委員は、第2期前期の委員を務めた人である。(平座長)

## 2. 利用者意見への対応について

### <報告>資料2「利用者意見一覧」(指定管理者)

- ・利用者意見の対応について、資料に基づき、指定管理者から報告があった。
- ・前回協議会以降に、市民活動サポートセンター(以下サポセン)運営に関して寄せられた要望や苦情は16件あり、うち、利用者サービス・施設管理に関するものが一番多く9件、スタッフの対応に関するものが3件、他の利用者の利用マナーなどに関するものが3件、サポセン主催事業に関するものが2件あった。資料にそって説明する。

まず、利用者サービス・施設管理については「(64番)子どもたちが学習するスペースはなくさないでほしい」というご意見があった。それから「(66番)開館時間・休館日の記載がない『利用のしおり』は問題がある」については、スタッフ連絡会・スタッフ調整会議で確認し、早急に改定版を作成することになっている。「(67番)児童養護施設のチラシがなくなった。話題になったテレビドラマの影響で撤去されたか」という件についてはサポセンではチラシを撤去していないことを説明し、調査したが原因は不明である。「(68番)ラウンジの縫い針の使用について、スタッフの説明について温度差があるので統一してほしい。」というご意見があった。縫物を行うこと自体については市民活動の公益性に落差をつけないという判断をとおしてきたが、針を使用する団体の皆さんに対し、安全性への注意を喚起するという点について、スタッフの対応に温度差があった事実がある。改めて、針の使用についてスタッフ連絡会・スタッフ連絡調整会で協議した結果、安全性確保のために場所を限定して施行する方向で考えている。「(69番)予約表示をもっと見やすくしてほしい。」という要望を始め73番まで施設管理のことだが、各々の対応について協議し改善を図ることを確認している。

次に、スタッフの対応についてのご意見として、59番、62番、63番があがっているが、「(62番)展示の終了時間を問合せしたにもかかわらず、来館してみたら撤収されていた」という苦情の件では、来館者を非常にがっかりさせてしまった。原因はスタッフの情報共有の不備だったため、即時、センター長がデータベース検索システムを改良した。「(63番)浦和コミュニティセンター利用者に対する業務姿勢」については、9階に設置されている浦和コミュニティセンター15集会室のご利用含めた問合せが、日常的に大変多いという背景がある。「他のフロアの利用者に対するスタッフの対応の改善を求める」というご意見に対し、スタッフ連絡会および連絡調整会議で、丁寧な案内や対応を確認している。他の利用

者への意見については、61番、65番、74番のとおり理解をいただくよう対応している。事業に関するご意見として、60番と72番のご意見がある。72番は、先ごろ開催したコムーナーフェスティバルでラウンジ全体が使われていることに対して、改善が必要なのではないかというご意見で、スタッフ連絡会・スタッフ調整会議で、今後の対応について方向性を確認している。60番についてはサポセンが取り組んできた防災、特に災害時要援護者の方々の地域支援という問題について、当事者の方からまだまだ不十分だというご意見をいただき、これまでの取り組みについてご理解をいただけるように説明した。（指定管理者・徳永）

### <質疑>

- ・72番の「団体」というのは、「登録団体」のことか。（尾内委員）
- ・はっきりわからない。（事務局・徳永）
- ・イベント時に、誰でもフリーで使えるスペースを確保することは、本当にサポセンに必要なのだろうか。サポセンの役割は市民団体の活動をサポートすることである。その市民活動団体のイベントの時に、なぜ、登録していない団体のためにフリースペースを用意しなくてはいけないのか。私は登録団体という立場から、あり得ないことだと思うのだが、こういう対応の取り決めでいいのか。（尾内委員）
- ・連絡調整会議でどのような議論が交わされたのか。（平座長）
- ・サポセンは、いつでもどなたでも使えるスペースの提供を目指している。そこで、いわゆる潜在層の方がふらっと立ち寄られること、市民活動団体の方がいつでも自由に使えるスペースを求めて来館されることを踏まえて、イベント開催を周知している。しかし、本来いつでも自由に使えるはずのラウンジが、使えない状況になっていることを知らないで来館された方への対応として、1つの区画だけでもフリーに使えるスペースを用意しておくことで、イベントを目的とせず来館した方も、市民活動のイベントに触れる機会をつくることができる、そういった見解であった。大沢委員、補足願いたい。（事務局・徳永）
- ・全員がイベントに参加してほしいというのが我々の願いだが、イベントに参加しなくてもいいという団体もたくさんあって、市民活動支援として求められている内容は多様である。サポセンの押し売りが強すぎてもいけない。ニーズは多様であり、それにできるだけ対応した方がいい。また、せっかく交流した団体が、今後について話そうという沙龙的なテーブルがいくつかあった方が交流が進むのではないか、そういう議論になった。（大沢委員）
- ・沙龙的なスペースはとてもありがたいが、そういうスペースを、無料だから使いたいという方々に占有されてしまったら、イベントで知り合った団体どうしが話をするために使うことはできなくなってしまう。無料だから、予約もしないですぐに使えるところだからという利便性だけで利用している人のために、イベントの時もスペースを空けておくのはサービスのし過ぎである。むしろ、「サポートセンターでは協力し合ったり、交流し合ったり、コラボし合ったり、つながり合ったりして、自分たちの活動を高めたり広げたりする

ためにイベントをしている、だから、今日はあなたたちの活動はできないが、良かったら、どうぞこのイベントに参加して行ってほしい」とはっきり言ってもいいのではないか。(尾内委員)

- 基本的に尾内委員の意見に賛成である。一方、大沢委員が言った「イベントの中でミーティングができるスペースを設ける」という案も重要である。マッチングというか、俗に言う商談コーナーがあってもいい。ただし、イベントのために利用が制限される場合があるといっている公共施設はたくさんあるので、その辺を考慮してスペースを確保するのはサービス過剰ではないかと思う。(土橋委員)
- 実は、今回のケースだけでなく、イベント時にスペースの利用を求めて来館される方々はけっこういる。その時、尾内委員がご指摘くださったような対応、つまり、「イベントに参加してほしい」という対応を通常はしている。それでは非常に困るというグループもあるのだが、これまでは対応できないので諦めていただくしかなかった。ワンテーブルでもフリースペースを用意しておけば、そういった方々のことも考慮したことになるのではないか、そういう議論になった。(事務局・徳永)
- イベント開催時ではなく、通常時にラウンジが全部埋まっているというケースは今までなかったのか。(杉委員)
- 全部埋まっていることもあった。(事務局・徳永)
- その場合も、来館しても使えない人からクレームが来るだろう。基本的にそれと同じことで、エレベーターホールのソファで充分ではないかと思う。(杉委員)
- 基本は「イベント時に誰でも自由に使えるスペースを確保する」ということで宜しいか。ただし、運用に関しては、「せっかくの機会なので、イベントも見たい、参加団体とも交流してほしい。」と呼びかけること。「いつでも、どんな人でも受け入れる」というのがサポセンの基本理念なので、ご理解いただきたい。個人学習は対象外である。(平座長)
- 73 番の「閉館時間を 22 時にしてほしい」は要望がすぎる。21 時半の閉館時間後、スタッフは終了業務があって 22 時退勤なのだから、22 時閉館にしたら、スタッフの退勤時間が 22 時半になってしまう。ここまでの要望には反応はしなくて良い。(野代委員)
- 68 番の、針の使用についての確認だが、これまで通り針は使用できるが、場所の限定を試みることになったということで宜しいか。理由は、注意しても針が床に落ちている場合があるためであり、対象は、縫い針など尖ったものの使用ということで宜しいか。(平座長)
- その通りである。(事務局・徳永)
- サポセンで使用禁止の道具は、常識の範囲ということで宜しいか。(平座長)
- 条例で定められているのは、火を発生させる可能性のあるものということで、アイロンはお断りしている。また、電気を使うものは許可が必要で、総合案内で電源利用申請を出してもらっている。(事務局・徳永)
- 音が出るものについてはどうか。(平座長)
- 一律に禁止ということではなく、音量と、他の利用者への配慮を求めている。(事務局・徳永)

- ・針の利用について、使い始めと終了時に本数を数えていないのか。(堀越委員)
- ・利用者は数えていると言っている。それでも落ちているという状況である。(事務局・徳永)
- ・他には如何か。それでは利用者意見の対応については宜しいか。また、後で何かあれば、事務局に直接言ってほしい。(平座長)

### 3. 利用者懇談会（第3回、第4回開催）の意見交換の結果について

#### <報告>資料3、資料4（利用者懇談会部会）

- ・第3回、第4回の利用者懇談会の意見交換の結果について、資料に基づき、利用者懇談会部会から報告があった。
- ・第3回と第4回は変則的な開催となっている。1月14日に、冬の交流イベント「伝える力を高める」6つのトークセッション企画が開催された。内容は、5月～10月に実施した「さいたま市の活動団体の現状と課題について」の団体対象アンケートおよびヒアリング調査の報告と意見交換である。利用団体の現状を把握できる良い機会との判断から、第3回利用者懇談会と位置付けて、これに参加した。当日、155団体から得たアンケート結果と、105団体に対するヒアリング結果について報告を受け、「連携」ということにフォーカスして意見交換を行った。当日は、アンケート結果とヒアリング結果の詳細を受け取ったが、今日は配布していないので、必要があれば事務局から後日、配布してほしい。それから、ユーチューブに当日約2時間のトークセッションがすべてアップされていて、今でも見ることができるので参考にしてほしい。乱暴にまとめると「団体運営の課題は、人・物・金に収れんされる。」ということであった。

利用者懇談会というのは、利用者の立場からの意見を出してもらおう場だが、サポセンのミッションが団体活動成長を支援することであるならば、利用団体の持つ運営課題を把握する今回のような企画は大変重要である。本年度初めの2回の利用者懇談会は、課題仮設型というか、「Facebookの活用」や、「必要なセミナーの内容」といったテーマをあげて行ったが、次の視点として、利用者団体のマネジメント課題を追求していくというアプローチも必要ではないかという感じを持った。こういうアプローチの利用者懇談会は今回が初めてであった。

次に、第4回利用者懇談会については、事務局から、3月1日2日開催のユマナーレフェスティバルで情報を集めたらいいのではないかというアドバイスがあり、第3回利用者懇談会と同様に、利用団体の現状を把握できる良い機会との判断から、第4回の利用者懇談会と位置づけた。利用者懇談会委員が来場者アンケート回収を手伝い、一般市民のサポセンに対する認知度・理解度の感触をつかむことを目的とした。当初、利用者懇談会デスクというものをエレベータホールに設けることを計画したが、祭りの賑わいの中で目立たないだろうという判断で取りやめた。ユマナーレフェスティバルは144団体が参加し、9600名の来場があった。参加者団体アンケートについては、サポセン機能について簡単な質問項目を追加してもらい、情報収集を行った。参加団体のアンケートは144団体のうち、119団体から回答があった。「団体活動の活性化にサポセンは役立っているか」という問いかけ

に対し、選択された回答は「役立っている」に 93 件、「あまり意識していない」に 10 件、「役立っていない」に 1 件で、これは理由が不明である。「役立っていないと回答された方にお聞きします。サポセンに不足している機能を選んでください」という設問には、「役立っている」と回答した団体からも回答があり、「団体の組織強化の手助け」という回答に 4 件、「団体のイベント開催支援」という回答に 4 件、「運営上必要な知識や情報の提供」という回答に 5 件である。その他、必要と思う機能について回答された方が 1 名いて、「支部機能。岩槻区の参加が少ないのは遠いことと、交通の問題が大きい。岩槻駅前コミセン 2 階のゼロスペースに岩槻支部の設置を検討願いたい。」という内容であった。

資料 4 に、当日参加した利用者懇談会委員の意見を掲載しているが、発言された委員の方、補足説明があればお願いしたい。

利用者懇談会の来年度開催についてだが、基本方針としてはセンターの管理運営要領に記載されている「利用者懇談会の位置づけを踏まえた体制」として、「管理運営に利用者のニーズを反映するための意見交換の場として設置」「公開での開催」「年 4 回程度の開催」というポイントは外せない。しかし、今年度の 1 回目と 2 回目の利用者懇談会は参加者が少なく顔なじみだけとなってしまったので、従来の形式にとらわれない、より多くの利用者の意見が集まるための仕組みが必要である。これはまだ具体的に議論しているわけではない。ここから先は私の個人的な意見となるが、先ほどのイベント時のスペースの確保の問題について議論があったが、そこに根本的な問題が含まれていると感じた。このスペースをどう使うかというのは、市と、運営している市民団体、利用している市民団体の、三者共同で議論して考えていくということが必要なのであって、利用者懇談会はお客様相談室ではない、そこで留まってはいけない、もっと利用者を巻き込んで、どうやって運営をブラッシュアップしていくかを考えなければいけない、そういう意味での利用者懇談会を、来期では目指さなければいけない。これは委員で合意が取れて文書化している話ではないが、補足させていただく。委員の方で補足することがあればお願いしたい。(土橋委員)

- ・どながか補足があれば、お願いしたい。(平座長)
- ・資料 3 に、第 3 回の利用者懇談会の位置づけで行った「調査報告会」の概要を記載しているが、一つ特徴的だったのが、他都市の市民活動支援施設の運営者が参加されたことである。11 月に県内の支援活動支援室の研修を行ったが、その参加者に、支援施設担当者がどういう役割を果たしていかなければならないかということと一緒に考える機会としてご案内したところ、三郷や草加の支援施設から参加があった。サポートセンターの運営について利用者意見をどう捉えて還元していくか、一緒に考える機会になった。なかなか利用者懇談会に他都市の方が来られる場面はないので、そういう意味でもとてもいい機会になった。(事務局・徳永)

#### < 質疑 >

- ・利用者懇談会に参加人数が少ないのは、関心がないためだろうか。呼びかけはしているが、集まらないということか。(野代委員)

- ・呼びかけはしている。人が集まらないのはかなり前からの問題である。立ち上がりの2年くらいはそれなりに集まったが、その後はほとんど集まらなくなった。(事務局・大工原)
- ・サポセンの利用ルールがある程度決まったので、大きい課題はさほど残されていない。大きい課題がある時は、皆さん、意見を言いたいということで集まられた。(平座長)
- ・パソコンコーナーの利用ルールに関する意見交換の際は参加者が多かった。(事務局・徳永)
- ・要は先ほど申し上げたように、もう、お客様相談室のようなことをやっても意見は出てこない。むしろ、「もう少し活動したい、手伝ってくれないか」という想いをどうやって引き出すか、それが、次のステップなのではないかと、私は考えている。評価シートにも書いたが、利用団体の義務として意見を出すという流れを作っていくべきなのではないか。そう簡単な話ではないと思うが、サポセンの成り立ちや有り方から考えて、取り組んでいく必要がある。来期の利用者懇談会委員会の中で議論していきたい。(土橋委員)
- ・私は利用者懇談会という仕組みがあること自体が素晴らしいと思っている。サポセン以外の市民活動支援施設が、どのように利用者の意見を吸収して次に生かしているかという点について、すべて存じ上げるわけではないが、最近できたプラザノースでいうと、PFI方式で、こういった検討の場がなく、意見は直接、運営している管理者に言うしかない。また、サポセンを含むさいたま市全体の市民活動施設の運営について協議する場もない。私は北区の区民会議委員の時に、プラザノースに対する北区の活動団体の要望を聞いて、ある程度まとめて要望したことがある。その意味で、サポセンの仕組みは非常に機能している。したがって、参加者が少ないこと自体をそれほど取り上げる必要はない。引き続き、この良い機能を活かして中身を充実していくことに努めれば良いと考えている。(鈴木委員)
- ・2～3年前から、利用者懇談会をどのように運営するか、テーマはどうするか、常に悩んできたが、ねらいについて見直す時期べきではないかという土橋委員のご意見を踏まえ、4月以降、また検討していただきたい。(平座長)

#### 4. 2013（平成 25）年度の評価について

##### <報告>資料 5（評価部会）

- ・2013（平成 25）年度の評価について、資料に基づき、評価部会から報告があった。
- ・皆さんに書いていただいた評価が表にまとめられたものが資料 5 である。この一部分を最終報告として WEB に公開することになる。それはどの部分になるのか、最終的にこれをもとに報告書をつくるが、誰がいつまでにどのようにするか、事務局に確認したい。それから、我々、評価部会委員が気になったことは、指定管理者の自己評価が非常に低いという点である。指定管理者の自己評価は、4 段階評価のうち、「改善の余地がある」という C 評価がととても多かった。次年度は 4 段階評価ではなく、5 段階評価にしてはどうか。つまり、S. ととても良い、A. 大体良い、B. 改善の余地があるといった 5 段階評価だと、評価がしやすいだろうという話になった。内容の詳細については、事務局から報告をお願いしたい。(薄井委員)

- ・従来から比べて皆さん積極的に意見を出していただいて、提案の部分がかなり増えている。  
(平座長)

- ・4段階評価は、Aがすぐれた成果がある、Bが成果がある、Cが一部改善が必要、Dが相当な改善が必要というものだが、委員の皆さんからの評価を見ると全般的にAとBを足したものと、Cの数が多く、成果をよく見てくださいという感じを受けた。Cが多いものについては、改善に向けて考えていかなければいけないと考えている。まとめに書いているように、これは、皆さんのコメントをもっとも重視する評価である。いただいたコメントの内容によって、良い点は○、問題点・課題は●、提案やご希望は◇を頭につけている。また、今後改善が必要があると受け止めたコメントの部分に波線を、今後の提案やご希望ありと受けとめたコメントには下線を引かせていただいている。サポセンの今後のことを非常に考えてくださったご提案をいただいたと受け止めている。全般的に「活動の翼を広げる」の部分に非常に良い評価をいただいた。協働の部分については改善の余地が大きいと感じている。

WEB公開の範囲だが、最初の文言は少し修正するが、概ねこの状態でWEB公開する予定である。評価結果全体として、ABCの数と、コメントをそのまま出す。分かりやすいように表示をしつつ、まとめていきたいと思っている。報告書については、今日の協議会を経て、今年度の評価が全体どうだったかという皆さんのご意見を踏まえたいので、まとめを行う。これは、評価部会の方を中心に行う。次回の運営協議会の時に、特に皆さんがご提案くださった点、課題・問題として提示していただいた点について、それぞれの問題に対して、どの主体がどういう改善を求められているのかということをもとめた一覧表を事務局で作成する予定である。それを基に、この評価がどう次年度に活かされるか、運営協議会の場で資料を見ながら考えていただき、一つのデータとして活用させていただこうと思っている。(事務局・徳永)

- ・皆さん、よく資料を読み込んで書いていただき、感謝している。とはいえ、サポセンはいろいろなことをやっていて、我々がやっていないだろうと思っていることもやっていたり、書いていることが事実と異なることもあるので、我々がコメントしたものが事実と異なるということがあれば、事務局からご指摘願いたい。(平座長)
- ・平座長のお話と逆バージョンとなるが、9ページの下から三番目の◇のついた「希望」のコメントに、「マッチング事業の担当課へのアンケート調査結果は今後活かしてもらいたい。」というご提案いただいているが、実はこの調査結果には実質がない。アンケートは用意はしていたが、調査するにいたっていないので、活かすことができないという実態がある。一時審査時の、私どものアピールの時に「予定」という形で記載したもので、準備はしていたのだが、実現できなかった。(事務局・徳永)
- ・それでは、これに関しては削除させていただくことでよろしいか。それ以外に何かあるか。  
(平座長)
- ・7ページの下から2行目の「コミセンと中央図書館とは、協働企画など、もっと連携できないか。」については、一応連携していると読めるが、たとえば、4ページの真ん中あたり



の「埼玉大や芝浦工大などとの連携の可能性はないのか。」という表現だとまったく連携していないとも読めるが、まったくしていないわけではない。運営協議会の場に埼玉大学の先生がお二人いらっしゃるが、それ以外にも大学生対象の企画を行ったということがある。ただし、充分ではないので、「もっと」ということであれば、我々としては受け止められる。修正させていただいた方がいいのではないかと考える。(事務局・大工原)

- これは私が書いたコメントである。いただいた資料に聖学院との連携の詳細が書かれていたが、それはどちらかという先生との個人的つながりに基づいている面がある。そのひとつ上のコメント「大学との連携は、個人的なつながりからのものなのか？」も私が書いたものだが、そういう連携は個人がいなくなると突然途切れてしまうということもあり得る。その下に、別の方からのコメントで「大学・公益法人・生協・労働組合等とは、人的交流に留まらず、パートナーシップ協定を結ぶなど連携協力関係を具体化し」とあるが、組織として関わるといふ形をとり得たら、連携は固いものになる。(薄井委員)
- 協定に関してはいくつかの大学が、さいたま市と分野別なり総合包括協定を結んでいるはずで、当然、埼玉大学も結んでいるはずである。その中に、具体的な分野が書かれていると思うが、サポセンまでイメージするものが書かれているかどうかは課題である。そこは支援室室長に頑張ってもらいたい。(平座長)
- 大学コンソーシアムは企画調整課が所管課であるが、インターンシップの協定など連携事業については、たぶん一覧としてどこかに出ているという形になっていると思われる。(大沢委員)
- 協定を結ぶと、定期的にさいたま市役所と大学のしかるべき人間で情報交換する会議を持つということになっている。市役所でも情報を吸い上げて、その会議に持ち出すという流れがあるはずなので、よろしくお願ひしたい。(平座長)
- それでは、今の部分は、もう少し前向きで積極的な表現にするということでしょうか。(平座長)
- 「連携の拡大の可能性」という表現でどうか。(事務局・大工原)
- サポセンと大学の契約はないということか。(中野委員)
- 今まで、サポセンと大学全体が組織どうしとして契約したことはないが、個別の研究室とは、たとえば芝浦工大の研究室や埼玉大学のさいだいひろばとの連携はある。(事務局・大工原)
- 学生をインターンシップで受け入れてもらう時は、さいたま NPO センターとの間で覚書を結んでから受け入れてもらっている。(平座長)
- 1 つ訂正箇所がある。6 ページの下部の「ぬり絵を市内 12 小学校に募集し、反応が 600 枚あった」と記載しているが、「820 枚」の誤りである。(事務局・徳永)
- 2 ページ目の●と◇の印がついたコメントで「市民活動サロンと各セミナーとの関連が不明」というご意見があるが、今年度はセミナーとサロンの関係性を持たせた事業はやっていない。機能の分担としては、セミナーについては、講師がいて教える側と学ぶ側という線引きがあり、一方、市民活動サロンはゲストスピーカーはいても一緒に一つの事例から

対等に対話を通して学んでいく。そういうつくりの違いでニーズに応じているとご理解いただきたい。(事務局・徳永)

- ・そうすると、どちらが応用か上級かということではなく、学びの手法の違いということか。(平座長)
- ・そういうことである。(事務局・徳永)
- ・このコメントは私が書いた。セミナーが十何回、サロンが2回開催されているとあるが、中身は何なのか、サロンはサロンなりの対応をしていかなければならないのではないかと考えて書いた。それから、セミナーについては、良い内容だったら同じものを何回やってもいいと思う。(杉委員)
- ・サロンとセミナーの位置付けをより明確にした方がいいというご意見か。(平座長)
- ・基本的にはそう思う。サロンをもっと充実させるべきである。(杉委員)
- ・昨年度のサロンの開催は2回で非常に少なかったが、以前は月1回12回シリーズで開催した経緯がある。(事務局・徳永)
- ・10ページに、評価項目として「連絡調整会議は市民の意見に迅速に対応し、業務や運営に反映させたか。」という設問があるが、これについて複数の方から「連絡調整会議の中身がわからないので評価できない」という指摘があった。そこで今回は「利用者意見の受付意見」の一覧表に、今まで表記を省いていた「連絡調整会議で検討した」というコメントを記載して、ご理解いただけるよう意識した。確かに今の状況では、「連絡調整会議」についての評価は困難だろうと事務局でも受け止めている。(事務局・徳永)
- ・それでは連絡調整会議のことについて、メンバーや開催頻度や内容など、説明していただきたい。(平座長)
- ・月に1度、支援室から室長と担当者、サポセン側からはセンター長の私とマネージャー3名が一堂に会して、サポセンが月例報告すると同時に、例えばラウンジの利用や夏の暑さ対策、備品の管理、印刷料金の設定など、日常的な問題について議論している。その中には、すぐ解決しなければならないこともあれば、運営協議会に諮るものもある。月に1度、1時間程度の予定だが、実際には大体1時間半から2時間ほどかかっている。補足があればお願いしたい。(事務局・大工原)
- ・要は月1回やると決めているが、問題が発生すれば日常的にすぐ話し合いをしてしまうので、連絡調整会議は必要ないのかもしれない。ただ、サポセンスタッフが全員揃うことはなかなかないので、全員顔を合わせる会議が月1回はあった方がいいということと、前月の振り返り、事業の進捗を確認する場という意味合いが大きい。(大沢委員)
- ・「回答不可」と書いてある部分は、私が抜かしていたものだが、Cとしてほしい。(杉委員)
- ・了解した。(事務局・大工原)
- ・連絡調整会議は、この運営協議会と同様、市民と運営者との協働を推進するという位置付けであることをご理解いただきたい。(事務局・徳永)
- ・2ページに◇として記載したとおり「市民団体自身が“自己判断”で活動の成熟度を評価するシステムを検討してはどうか」というご提案をいただいたが、もう少しわかりやすく

具体的に教えてほしい。(事務局・徳永)

- ・それは私が書いたコメントである。それぞれのミッション・活動目標がある多様な団体に対し、最大公約数的に、かつ、きめ細やかに、できるだけ個別にもサポートするのが、サポセンのミッションだが、市民活動団体自身が、自分たちがどういう風に成長したらいいのか、どこへ向かっているのかということをご自己評価して、それがサポセンからも見えるような共通の価値観を持つことが必要なのではないかと考えた。自分たちが持っている目標に対してどこまで進んでいるか、どういうことが足りないのか自覚する、あるいはメンバーの中で共有するということをご各団体がそれなりにやっていると思うが、サポセン側から団体が自己評価できるテンプレートのようなものも出せるといいと思う。私は仕事で企業の成熟度診断に取り組んでいるが、そのたき台の作成は非常に困難で、すぐには出せないと思うが、サポセンの中長期的なテーマとして、そういうものを提示するというごことはやってもいいのではないかと。そういうものがあると外部から見て、サポセンがしっかり機能しているということが説明しやすいのではないかと。スタッフの皆さんが細かく状況を把握してペーパーに落とし込んでいるので、定性的なものはすごく細かく出ているが、1400団体をグロスで定量的に見るような視点があってもいいのではないかと。去年までは活動の達成度がABCランクで言うとBランクだが、今年はこうなると説明をするというのが、対外的にも説得力があるのではないかと。課題に対するアンケートを見ると、ざっくり言うと「人・物・金」で困っていると回答があるが、どの程度「人」で、「金」で、「物」で困っているのか、尺度をもって測ればという考え方である。(土橋委員)
- ・貴重なご意見である。そのテンプレートを土橋委員が作っていただければと思うが、これは1人では大変だと思うので、実際やるとなると、研究会を立ち上げ、利用者懇談会で意見をもらって仕上げていくということになるかと。(平座長)
- ・3ページにご提案として「広報活動の強化としては、さいたま市や関連団体((公益)さいたま観光国際協会)などとHPのリンクを張ってください。FacebookやTwitterでの連携も願います。」というご意見をいただいている。サポセンはFacebookは運用しているが、Twitterにはまだ取り組んでいない。皆さんはどう思われるか。(事務局・徳永)
- ・さいたま市のHPにTwitterはあるのか。(平座長)
- ・ある。Twitter、Facebook、ブログに、YouTubなど、いろいろある。(大沢委員)
- ・Twitterについて、どう思われるか。(平座長)
- ・市のHPとブログとTwitterを毎日のようによく見ているが、似たようなものが載っていて、いったいこれはどういう風に使い分けると市民の皆さんに情報が伝わるのか、ずっと勉強し考えているが、いまだによくわからない。こういう情報はこれを使うと非常に伝わりやすいなど、そういうことがよくわからない。全部やらなければいけないものなのか。(大沢委員)
- ・その辺に関して、セミナーのテーマとして取り上げたことはあるのか。(平座長)
- ・Facebookはある。(事務局・徳永)
- ・Twitterの使い方についてはまだないということか。(平座長)

- ・情報管理も含めて、Twitter も始めると大変になるし、発信しっぱなしになってしまうわけにはいかないの、今は手を付けられていない。(事務局・徳永)
- ・ご提案はご提案としてさまざまな意見があつていいと思うが、市民活動支援として、いろいろな事業を幅広くやればいいのかというわけではない。非常に仕事が広く錯綜している中で、ここであげられた意見をもとに、どこにウェイトを置いて実施するかということも考えなくてはいけない。事業を単に増やすようなものは「現時点ではこれはやりません」というように答えていいと思う。私自身の反省もあるのだが、「やらないよりやった方がいいだろうから、やってもらおう」という視点でいろいろなことをお願いするのはいかなものかと思う。(鈴木委員)
- ・皆さんが書いていただいたご意見について、全部実施することは物理的に難しいが、一応、これはこれで活かして、事務局で一表にし、来年度第1回目か2回目の運営協議会で提示していただくことになっている。それでよろしいか。(平座長)
- ・了解した。(事務局・大工原、徳永)
- ・今日まだ発言していない委員の方に、評価の感想をお聞きしたい。声を出して帰る運動とか、発言していない方にぜひ。(中野委員)
- ・ではまず、轟委員に自己紹介からお願いしたい。(平座長)
- ・はい。遅刻してきて申し訳ない。埼玉トヨペットの後藤が、こちらの委員を担当させていたが、後藤が2月で異動となったため、私が交代した。実は私は前期も委員を務めさせていただいた。今回の評価については、何もわからないまま一所懸命資料を読んで、私なりのコメントを書かせていただいたが、本日、皆様のご意見を拝見させていただくと、確かに前期よりも活発に意見が出ていると感じた。それだけ皆様が市民活動に対して真剣に取り組まれているので、私もうかうかしてられない、さらに勉強し、皆様と交流を図りながら、少しでもお役に立てればと思う。どうぞ今後もよろしくお願ひしたい。(轟委員)
- ・では、他にまだ発言されていない方に、感想や意見をお願いしたい。初めて取り組まれた方は非常に苦勞されたと思うが、よりやりやすい評価方法を考えるうえでも参考になるので、苦勞された点も含めてご発言をお願いしたい。(平座長)
- ・今回、学習会の機会があり、どういうポイントで見るかなど教えていただいたので、評価しやすかった。(尾内委員)
- ・学習会に参加されたのは、尾内委員と、栗原委員と、土橋委員か。栗原委員はどうか。(平座長)
- ・コミュニティ関連施設とは、どのように捉えているのか、気になった。関連施設といえば、さいたま市の公民館も地区社協も含まれるのではないかという意見を出した。3月1日2日開催のコンナレフェスティバルについて、「告知を公民館ほかで見た」が47件となっているが、これを見ると、コミュニティセンターばかりでなく、公民館ともつながれるのではないか。前に発言したが、出前講座のように、サポセンの外に出ていく事業と関連させることができるのではないか。10区に1つしかないサポセンが、いかに地域に入り込む

か。地域の他の施設とタッグを組めないはずはないし、そのために支援室が協働している意味がある。そこのところの認識と、地域に入り込む作戦の立て方など、同じ根っことみている。(栗原委員)

- ・事務局から、その点について現状と今後について話してほしい。(平座長)
  - ・コミュニティ関連施設との連携について、事業として行っているのは、コミュニティセンターが対象である。さいたま市にある20のコミュニティセンターのうち18が文化振興事業団の管理運営であり、残り1つが先ほど鈴木委員がおっしゃったPFI方式のプラザノース、もう1つが株式会社が運営している武蔵浦和のコミュニティセンターである。このうち、文化振興事業団と、武蔵浦和コミュニティセンターは、それぞれ指定管理を請け負うにあたって、市民活動支援を行うことが条件に挙げられている。サポセンもコミュニティセンターとの連携が運営条件にあげられているので、これは実施せねばならない事業である。これまでに、文化振興事業団管理のコミュニティセンターとは、各施設で、チラシ作成講座を開き、チラシを評価し合うチラシセッションという催しを行っている。今年度は、コミュニティセンター側から、それぞれの利用団体のサークルが相互に取材し合う「サークルレポート」をやってはどうかという提案があり、これを実施した。チラシセッションはある程度の成果をあげたということ、自分たちなりのことをやりたいという要望によるものである。ただ、考え方の違いがあり、別組織との連携は大変なことであり、来年度は検討中である。一方、今年度、設置された武蔵浦和コミュニティセンターではチラシセッションを実施した。担当者から補足をお願いしたい。(事務局・大工原)
  - ・文化振興事業団とは、3年間、チラシセッションというものをツールにして、団体どうしの交流や団体と職員の交流、コミュニケーション強化を目指して実施したが、今年度はサークルレポートという形で、その施設を利用している団体どうしが取材をし合ってレポートすることで、あらためて自分たちの団体の良さなどが見えてくるということと、まったく知らない団体どうしが知り合うきっかけになればということとで実施した。それぞれの館によって温度差があって、しっかり出来ているところと出来ていないところがあった。次年度については、コミュニティセンターの職員でプロジェクトチームを立ち上げ、地域連携・地域交流としてコミュニティセンターでどういうことがやれるのかということゼロから作っていき、最終的に年度末にモデル事業をいくつかやって、良かったものを次年度に全館で行おうという話になっている。武蔵浦和コミュニティセンターとはチラシセッションを共催という形で行ったが、今年初めての実施だったため、年度当初からの計画に入れられず、参加団体の募集などを十分にできなかったという状況だった。次年度についてはイベントなどからまかせて行った方がいいのではないかとということで、始めからきちんと計画を立ててチラシセッションを共催で行う予定となっている。ノースとはなかなか連携ができていない状況である。
- 一方、出前セミナー事業について、会場はどここのコミュニティセンターだと周知しても、なかなか集客が難しいところがあるので、会場としたいと思っているコミュニティセンターと共催という形で行うことを考えている。利用している団体にどのようなニーズが

あって、どのようなセミナーなら受けたいと思っているのかということも、コミュニティセンター側と話をしながら進めていきたい。このように、いろいろなコミュニティセンターとセミナーを共催するという方法でも連携できると考えている。(事務局・道具)

- ・さいたま市は、平成 17 年度、18 年度に「さいたま市コミュニティ関連施設検討会議」を設置し、私が委員長を務めていた。サポートセンターが設置される以前の話で、公民館やコミュニティセンター、プラザ等を対象に検討していた。公民館は教育委員会の管轄で、社会教育と生涯学習を目的としていて、コミュニティセンターはどちらかと言えば貸館になっているが、今後、さいたま市ではコミュニティ関連施設をどのように位置づけて運営していったら、市民のためにいいのかということを検討する委員会だった。平成 19 年 3 月にまとめられた『コミュニティ関連施設の今後のあり方について－提言－』では、コミュニティ関連施設、特に市民に身近な地区館は、「生涯学習機能」「地域交流機能」「地域支援機能」という 3 つのコア機能をみたくすることを提起した。学習をしながら今後の少子高齢化や環境などさまざまな地域社会の問題解決に市民が中心となり対応する、そういう場所に市民と行政の協働でしていくのがいいのではないのかという提言であり、それを市役所が受けて、今、お話しにあったように、サポセンとコミュニティセンターが交流している。ベースには『提言』がある。つまり、目標はもっと先のところにあるのだが、入口のところでなかなかうまくいかない状況に見受けられる。コミュニティセンターの指定管理者は文化事業団で、そもそもそういう方針についてわかっている人は少なく、職員にはやらされ感もあるのかもしれない。

今回の評価を見ていて、C がたくさんついているところにはそれぞれ問題があるので、評価をした後の次のステップは、どうしてここに問題があるのか、運営協議会で話し合っていたらと思っ

それから、私も評価基準の話をしていた時には気が付かなかったのだが、ABCD に 2 つの基準が混ざっているので、たぶん皆さん付けずらかったと思われる。「優れた成果がある」「成果がある」「成果があまりなかった」「成果がなかった」なら基準はひとつである。しかし、実際は「A. 優れた成果あり」「B. 成果あり」「C. 一部改善が必要」「D. 相当の改善が必要」となっている。「成果があっても改善は必要」というように、B と C は両立するので、これは書きにくい。来年度については改善が必要である。(堀越委員)

- ・皆さん全員にご発言をお願いしようと思っていたが、時間がきてしまった。この後の事務局からの事業報告にそれなりの時間がかかるということだが、評価についてはよろしいか。(平座長)

- ・ 11 ページの協働管理運営の仕組みの評価で、「基本的なことであるが、運営協議会が珍しい例として、市民活動支援室にかかわりなく設置されていることに違和感がある」というご意見があった。「さいたま市型協働運営管理方式」という特徴として、市民主体で運営協議会を設置するという意義があるのだが、その点については、過去 6 年間の運営協議会の中でも、「協働という意味でも不自然ではないか」というご意見があり、議論をしてきたという経緯がある。市民が設置することに意義があるという見方もご理解をいただければと

思う（事務局・徳永）

- ・これは私の意見である。協働ということなのに、市民活動支援室が設置の主体とならずに運営協議会が設置されていることにこれまでずっと違和感があった。支援室の大沢さんは、指定管理者が開催しているこの運営委員会が自立していくのを見守っていくという立場をとっている。そこになんとなく違和感がある。（田島委員）
- ・運営上はかかわっているのだが、規定上は、指定管理者が設置するという事になっていく。それに対して、設置者は、指定管理者と市民活動支援室の両方が妥当ではないかという意見は、これまでも出ている。（平座長）
- ・そこに最初から違和感があった。（田島委員）
- ・それでは時間が迫ってきたので、協議事項4番は以上にさせていただきたい。（平座長）

## 5. 市民活動サポートセンター実施事業および事業の進捗について（指定管理者）

＜報告＞資料「月例業務報告書（平成25年2月）」およびイベントチラシと、「第2回コムナーレフェスティバル報告」（当日配布）に基づき、報告があった。

- ・配布した2月の月例報告は今まで通りご確認いただきたい。その後ろに、3月1日2日に行ったコムナーレフェスティバルの報告を添付したが、それに基づき、担当マネージャーの道具から報告させていただく。（事務局・徳永）
- ・3月1日2日に第2回コムナーレフェスティバル「あなたのワクワクを見つけよう」を開催した。昨年、コムナーレフェスティバル第1回目を8階9階10階で一緒に開催したが、今回はその2回目である。「市民活動を伝える・楽しむ・広げる」ということを目指し、また、来場者の皆さんが地域の課題に気付いて市民活動を始めるきっかけになればという、多くの団体が参加するおまつりである。まずは楽しんでいただく、楽しめるということを中心にPRをした。当日はあいにく例年になく2日間とも雨になったが、来場者数はとても多く、9階だけで2日間延べ6000人。それに10階と8階の来場者数、1日だけ行った1階の来場者数を加え、およそ9600人という数字をあげている。参加団体は144団体である。実行委員会形式で運営しており、12月から2月まで毎月1回ずつ実行委員会を開催し、それぞれのエリアをどのように運営していくのか検討していただいた。前日の会場設営、当日のチラシ・プログラム配布なども含めて、みなさんで作り上げ運営していただいた。企業からもスタンプラリーの景品提供の協力をいただいた。まだ最終報告ではないが、経費はだいたい50万円ほどで、サポセンと浦和コミュニティーセンターで折半して運用した。来場者アンケート結果を添付している。今回、フードバンクシステムからミートソースを4000個ほどご提供いただいたので、アンケート回答者にはミートソースを差し上げるとPRしたところ、2日間で718枚の回答があった。アンケート結果だが、やはり地区別には浦和区からの来場が多く、次いで南区となっている。告知チラシは、毎年、小学校や幼稚園に配布しており、例年通り、家族連れの出場が多く、年代としては10歳未満のお子さんと30代40代の親御さんの家族連れがもっとも多かった。例年は高齢者の出場が多いが、今

年は特に若い世代の来場者数が多く、賑わっていた。「フェスティバルをどこで知ったか」という問いでは、参加団体の皆さんのPR協力によるものと思われる、知人からの案内がもっとも多く、次に幼稚園・小学校で配布されたチラシとなっている。そして、「このイベントに参加して市民活動への関心は高まったか」という問いに対しては、ほとんどの方が「はい」と回答しており、「とても良かったし、こんなにいろいろな活動をしている団体があることを知ってびっくりした」という回答や「子育てが一段落したら、ぜひ自分もこういう活動をやってみたい」というような回答をいただき、アンケートからはとても良い成果があったと考えている。(事務局・道具)

- ・ コムナーレフェスティバル以外の事業については、配布した月例報告書を見ていただきたい。調査+冬の交流イベントトークセッションについては、ただいま報告書を作成中であり、次回の運営協議会では配布する予定である。事業報告については以上である。(事務局・徳永)
- ・ その他に何かあるか。(平座長)
- ・ 私はチャレンジスクールに参加しているが、先日、地域コーディネータの打ち合わせがあり、サイエンスショーを行い好評だった辻小学校では謝金なしでお願いできたと聞いたが、私どもの地域コーディネータが団体に問合せたところ「謝金はいくらもらえるか」と聞かれた。それで依頼は取りやめたが、サイエンスショーの出前については、サポセンにも情報が掲示してある。掲示してあるからには、サポセンも内容を把握していると思うので、そういったことが発生したことをお知らせする。(野代委員)
- ・ 団体による出前講座の情報をサポセンの可動ボードに掲示しているが、出前条件として、交通費や謝金の有無を記載しているが、謝金なしと書いてあったので依頼しようとしたら、先方の団体から「謝金はいくらいただけるか」と聞かれた。記載事項と実際が異なっており、おかしいのではないかというご指摘だった。サポセンも情報掲示を受付ける時には内容の確認をしているので、サポセンとしても団体を信じて掲示している。今回、内容が異なっていることについては、その団体に確認しなければ事情が分からない状況である。(事務局・道具)

## 6. 今後のスケジュールについて

- ・ この運営協議会は年度はこれで終わりとなり、来年度はいつごろ、どのように立ち上げるのか。(土橋委員)
- ・ 来年度第1回目の開催はだいたい5月下旬から6月の初めを想定している。議題は、先ほど堀越委員からもお話しがあったが、評価で浮かび上がったことの整理をし、さらに協議をすることになる。それが終わってから、サポセンWEBに掲載する。それから、部会参加のご希望については、年度をまたいでお聞きして、調整ができるのであれば調整したい。(徳永)
- ・ 基本的には、引き続きお願いしたい。(平座長)



- ・利用者懇談会の来年度の計画は、いつ時点でどのように立てたらいいのか。(土橋委員)
- ・利用者懇談会と運営協議会は、年間各4回開催すると定められているので、運営協議会の前に利用者懇談会を開催するようスケジュールリングしていたが、今年度は委員の代わり目で、事前開催は不可能だったので、一つずつずれていった。次年度も部会長始め委員の皆さんが引き続き担当していただけるならば、5月下旬の運営協議会の前に利用者懇談会を一度開催していただければ、まわりは良くなると思う。(事務局・大工原)
- ・それでは、事務局の持っているスケジュール感を早めに出していただきたい。日程は決まっていなくとも、この時期にこういうテーマで、というものを出していただきたい。(土橋委員)
- ・テーマは決めていないが、次回運営協議会の前に、利用者懇談会を開催した方が、うまく回転していくと思われる。例年だと9月に運営協議会を開催し、その前の7月末から8月の頭頃に第2回利用者懇談会を、次に12月に運営協議会を開催し11月に利用者懇談会を開催する、その頃になると評価部会が始動を始め、採点方法の検討などに入ることになる、そして3月に第4回の運営協議会を開催し、その前の2月に利用者懇談会を開催するというのが宜しいかと思われる。(事務局・大工原)
- ・おおよそでいいので、年間計画をつくって出してほしい。(堀越委員)
- ・了解した。早急に送付させていただく。(事務局・大工原)
- ・お願いしたい。(土橋委員)
- ・それでは、あらためて、引き続き、部会の委員をお願いしたいので、事務局の方で確認していただきたい。(平座長)
- ・現在所属されていない方で、利用者懇談会・評価部会のどちらかに入会したいという方がいらしたら、ぜひ関わっていただきたいので、よろしくお願いしたい。(事務局・徳永)
- ・委員のことで確認したいが、委員からの評価の提出が16人中15人とあるが、名前はあがるが会議に参加したことがない委員がいるということか。(薄井委員)
- ・そうである。(事務局・徳永)
- ・それでも枠組みとして入れなくてはいけないという仕組みなのか。(薄井委員)
- ・そうである。(事務局・徳永)
- ・了解した。(薄井委員)
- ・他には宜しいか。それでは、以上をもって第4回運営協議会を終了する。(平座長)

以上